

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 09020020

政策目標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	2	林業の振興	事業優先度	A		
単位施策	1	生産体制の強化	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)		
事業名	未来につなぐ森づくり推進事業		見直し年度			
事業期間	平成25年度～平成29年度		担当課	9 産業振興課		
事業主体	雄武町森林組合		関係課	#N/A		
事業指標	無立木地等での造林施策の推進		関係例規・法令名	#N/A		
事業目標	年間造林面積 300ha		ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業		
住民参加	無		関係例規・法令名	無		
住民協働	無		関係個別計画名	有 森林施策計画		

全体計画 事業内容		平成 25 年度 事業内容	平成 26 年度 事業内容	平成 27 年度 事業内容	平成 28 年度 事業内容	平成 29 年度 事業内容	
計 画 内 容	人工造林 300ha	人工造林 60ha	人工造林 60ha	人工造林 60ha	人工造林 60ha	人工造林 60ha	
	事業費(千円)	49,400	9,880	9,880	9,880	9,880	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	30,400	6,080	6,080	6,080	6,080	
	地方債	0					
	その他	0					
実 績 事 業 費	事業費(千円)	17,702	8,081	9,621	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	10,893	4,972	5,921			
	その他	0					
関 連 事 項	特定財源の名称 未来につなぐ森づくり推進 事業補助金	【評価・実績】	(実施内容等) 人工造林 38.51ha	(実施内容等) 人工造林 53.20ha	(実施内容等)	(実施内容等)	
			※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果 B-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	人工造林 60ha	人工造林 60ha	人工造林 60ha	人工造林 60ha	
	第6期計画への継続 (継続有り)	年度達成率		82%	97%	0%	0%
		全体達成率		16%	36%	36%	36%
	事業進捗状況	☆☆☆	☆☆☆				

事業名	未来につなぐ森づくり推進事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	横田 和幸
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	渡部 憲一

様式1
平成26年度実施
平成27年度評価

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	森林所有者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	造林面積		
【抱える課題やニーズは】	森林整備による地球温暖化への積極的な貢献や相次ぐ災害の発生による国土保全機能の向上		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	森林の有する多面的機能を総合的かつ高度に発揮させる造林の実施		① 造林実施面積÷造林計画面積	目標年度	平成26年度
				目標値	60.00 ha
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	北海道らしい豊かな「ふるさと山」の造成の推進	②	実績値	53.20 ha	
			達成度	88.7 %	
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	①補助金の交付	森林環境保全整備事業実施要領に基づき補助対象とされた造林事業のうち、森林組合に委託して行った事業に対して補助。町が造林事業費の26%を助成した場合、道から町に造林事業費の16%が補填される。			

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	森林所有者の森林施業に対する意欲の維持・向上を図り、森林の公益的機能の高度発揮、木材資源の循環と未立木地や伐採跡地の解消、さらには北海道らしい豊かな山づくりを推進するため必要性が高い。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	<input type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	民有林の森林整備が促進され、地域林業の振興が図られるとともに、森林資源内容の充実と生産力の増強が図られ、併せて、森林の持つ多様な機能の高度発揮に寄与した。しかし、森林所有者の理解を得られず、実施面積が目標に達しなかったことから、今後、さらに目標達成に向けた森林所有者への働きかけが必要である。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	本事業の適用となる町の負担割合は、北海道が制定した「未来につなぐ森づくり推進事業実施要領」で定められており、町が道の補助を受けるべく、制度の基準を満たす範囲の助成を行うように努めている。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	対象となる事業を実施した森林所有者、全てを対象としている。また、森林所有者も北海道・町の要領に基づき負担している。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
課題あり	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
森林所有者の負担軽減を図るとともに森林施業を促進し、公益的機能を持つ森林を育成する事業であることから、目標達成に向け森林所有者へ働きかけつつ、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
造林施業が推進されることで、本町の林業生産力の向上に繋がるとともに、環境の保全が図られることから、継続して実施すべき事業であり、当分は現状維持が適当である。		

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止